

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について
平成 1 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

平成 1 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名：マレーシアミバエ（ナスミバエ） *Bactrocera latifrons*
- 2 対象作物名：ナス科植物
ナス、ピーマン、トマト、トマピー、テリミノイヌホオズキ(野生寄主)等
- 3 発生地域：与那国島
- 4 発生の経緯
1984年6月に与那国島潮原から採果したプチトマトからマレーシアミバエのメス1頭が羽化した。翌年、1985年7月～11月の間に採果したテリミノイヌホオズキ、プチトマト、ピーマンから124頭の羽化を確認した。その後1986年～1998年の12年間については、定期的なミバエ類寄主果実調査では本種の寄生は確認されなかった。しかし、1999年10月及び12月の果実調査においてトマピーとナスから寄生が確認された。その後2004年1月までの調査の結果では、ナスやテリミノイヌホオズキ等で寄生が確認されている。
- 5 形態・生態・分布及び被害
 - 1) 形態
成虫は体長約6mm。ミカンコミバエに似ているが次の点で異なる。
翅の前縁脈の頂端において黒紋がふくらむ。
腹部背面は全体が褐色でT字黒紋がない。
顔斑が長楕円で大きい。
 - 2) 生態
 - ・3月～12月に寄主植物への寄生が認められる。年間世代数はおよそ7世代。
 - ・果実の内部に産卵し、幼虫が果実内部を食害する。老熟(3齢)幼虫は乳白色・黄白色で、体長は7～9mm。老熟すると果実から脱出して、地中に潜り蛹化する。
 - 3) 分布：東南アジア、台湾、ハワイなどに分布する。
 - 4) 被害：幼虫に寄生された果実は食害により腐敗する。ただし、ミカンコミバエに比べれば寄主範囲は狭く、被害は小さい。
- 6 防除対策
 - 1) ほ場内での収穫残さはビニール袋に入れ、密閉処分する。
 - 2) 施設栽培では側面、天窓、出入口に防虫網(2mm以下)を設置する。
 - 3) ほ場周辺の野生寄主果実は除去する。
 - 4) 他地域への分布拡大防止のために寄主果実の島外移出は自粛する。